

プロ野球キャンプ誘致に関する研究～奄美大島と主要キャンプ地を比較して～

1220534 濱田雄一郎

指導教員 林一夫

研究背景

近年、プロ野球チームのキャンプ地の間では激しい誘致合戦が行われている。2000年以前プロ野球のキャンプ地として台頭していたのは、宮崎県と高知県である。それが、今では沖縄県に12球団中9球団が集中している。プロ野球の春季キャンプは、今後更に、沖縄県へ一極集中されると予測されている。その影響もあり、筆者の出身地である奄美大島で行われていた横浜 DenA ベイスターズの秋季キャンプが2019年をもって終了した。2019年まで、奄美大島はプロ野球キャンプによる観光客の増加や学生への野球道具の寄付など多くの恩恵を受けていた。

研究目的

本研究は主要キャンプ地と奄美大島を比較しどのような違いがあり、どう改善すれば良いかを検討し、奄美大島にキャンプを誘致するための必要要件を明らかにすることを目的とした。

調査・分析方法

奄美大島にプロ野球チームのキャンプ誘致を考える上で、①キャンプ誘致の必要要件（地理的關係による必要要件と気候条件を比較）②キャンプによる経済波及効果（沖縄県の経済波及効果を調査、春季・秋季キャンプの比較）③沖縄県の成功要因（沖縄県の成功から奄美大島でのプロ野球キャンプ運営への活用方法）以上3つの検討項目から事例研究・先行研究で検討していく。

分析結果

①「キャンプ誘致の必要要件」では、奄美大島がキャンプ誘致の必要要件を満たしていることが分かった。②「キャンプにおける経済波及効果」では、沖縄の経済波及効果から、プロ野球キャンプの規模や、春季キャンプ・秋季キャンプで経済波及効果の違いがあることが分かった。③「沖縄の成功要因」では、沖縄県の取り組みから自治体のみでの運営だけではなく島民一人一人の理解を深めることが重要だということが分かった。

考察・結論

検討項目によって、奄美大島がプロ野球キャンプを誘致する上での必要要件を満たしているおり、沖縄に隣接していることからその他の主要キャンプ地より利便性があることが分かった。更に、沖縄県が国内外問わず複数の球団を受け入れていることから、日本球団の一軍キャンプに捉われず、海外球団や二軍のプロ野球キャンプの誘致に目を向けることが大事である。特に、集客力の違いから春季キャンプを受け入れる方が、経済波及効果が出ることが分かった。沖縄県の取り組みから、奄美大島がプロ野球キャンプを誘致する上での課題とストロングポイントが明らかになった。